

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和3年3月31日

事業所名 企業組合 労協センター事業団 放課後等デイサービス すかい

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			机・椅子のソーシャルディスタンスを考慮した配置	5㎡/1人以上のスペースを確保している。(2.47㎡/1人を遵守している。)
	2	職員の配置数は適切である	7				利用者1人当たり0.5人以上の職員を配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7			入口・部屋間にスロープを設置	ほぼバリアフリー化されている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	2	1		ミーティングで改善等の検討を行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			アンケート結果により保護者の要望や質問に答えるようにしている。	年1回 4月にアンケート調査を実施している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7				事務所において公開している。H30年度より自己評価をホームページにUPしている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		4	3		第三者評価はできていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	2		発達障害等子ども達に寄り添えるような研修に取り組んでいる。	コロナ禍の中にあり、外部の研修ができていない状態であったが、発達障害等のDVD観賞やwebnerによる研修への参加を試みた。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7				
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	3			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	3		本人のしたい事・集団でする事の支援プログラムを立案する。	子どもの特性を見極めながら、子ども達が楽しむ遊び・イベントを職員で検討、実施している。(特に長期休暇は、普段できないことを計画している。)
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7				
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7				
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	2	1		勤務時間帯が異なる場合は、必ず指導員に周知してから開始する。(特に行事や訓練など実施の場合)
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	4	1		送迎後短時間ではあるが、送迎時の様子を含めて振り返っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7				
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7			6ヶ月毎のモニタリングを実施、支援会議を行い、個別支援計画の見直しをしている。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	7					

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			児発管・担当指導員などが参加している。		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7				送迎時に学校での様子の確認や必要な時に書面でのやり取りなども行っている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	6	1			具体的に医療的ケアの必要な子どもを受け入れた場合は主治医等との連絡体制をとるようにする。(現在は対象の子どもはいない。)	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7				各機関とは連絡を密にして情報を共有して相互理解に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7					
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7					
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	1	2			近隣の学童保育の子どもたちと交流がある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	2				栗東市障がい児・者自立協議会に参加している。(コロナ禍の昨年は実施されていない)
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1		保護者との連携を常に密にしている。		子どもを家に送る際、子どもの様子を保護者に伝えながら、共通理解を持てるようにしている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	6					
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7					保護者には契約時に内容を理解していただけるようにしっかり説明をしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7					日頃から保護者と色々の会話をする中で、保護者の相談等の対応をしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		4	3			
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7					今まで苦情などはないが、すぐに対応できるように体制は整えている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7					月1回 すかい通信 を発行している。
	35	個人情報に十分注意している	7					書類等個人情報が記載されているものは、施錠できる書棚に入れてある。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7					保護者⇔すかい 日々の連絡帳に記載
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6	1			

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			各マニュアルを作成し、事務所内に掲示し、保護者に配布している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		子ども達が理解できるように事前の説明をおこなう。	実施している。年3回（火災・防犯・地震）
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		虐待防止のDVD観賞	コロナ禍で、外部研修は少ないが、内部で実施。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7			個別支援計画書の裏面に記載している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	1		現在の利用者にはアレルギーはないが、新規受け入れ時に確認している。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			作成した内容を共有して、保管している。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和3年3月31日

事業所名 企業組合労協センター事業団 放課後等デイサービス すかい 保護者等数(児童数)15名 回収数15名 割合100%

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	14			1	一度も言ったことがない。	5㎡/1人以上のスペースを確保している。 (2.47㎡/1人を遵守している。)
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	14	1				利用者1人当たり0.5人以上の職員を配置している。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	11	2		2	一度も言ったことがない。	ほぼバリアフリー化されている。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	14	1				アセスメントやモニタリング・支援後の評価などから適切な計画書を作成している。
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	15					子ども達の特性をふまえて、平日や長期休暇に合わせた支援を行っている。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	10	5				近隣(治田西小グランド)で遊びを共有することがある。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	14	1				
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	15					子ども達の自宅への送迎時や連絡帳等で意思疎通ができるように心がけている。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	13	2				
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	8	4		父母の会への参加は必要としていない。	
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	13	1		1		今まで苦情などはないが、すぐに対応できるように体制を整えている。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	13	1		1		子ども達の自宅への送迎時や連絡帳等で意思疎通ができるように心がけている。
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	15					毎月「すかい通信」を発行して、当月予定や前月の様子、及び連絡事項等を記載している。自己評価結果はHPIに記載。保護者にも結果報告している。
14 個人情報に十分注意しているか	14	1				個人情報は施錠のある書棚に保管している。	
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	15					事務所内に掲示している。保護者に配布済み。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	15				子どもからと連絡帳により確認している。	年3回実施。より一層子ども達に理解できるように行う。保護者には「すかい通信」等で連絡をしている。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	15				いつも通所を楽しみにしている。	子ども達がいつも「すかいに来て楽しかった」と感じてもらえるような支援を心がけている。
	18 事業所の支援に満足しているか	15				丁寧な対応に感謝している。	

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせられて実施されることが想定されている。